

ここからは、各施設でマニュアル作成や研修企画を行う際に、【知識編】の項目に優先順位を付ける、項目抽出するために活用できるデータをご紹介します。

①全体結果、②性的問題の対応経験×独自マニュアルの有無、③【知識編】の活用経験ごとに、評価の高い順にランキングを付しています。

下表を見ると、問題対応等の経験に関わらず活用されやすい項目、経験値の高い施設で特に活用されやすい項目、現状活用されにくい項目があることが分かります。

(※2では、施設種別ごとのデータも紹介しております。)

	① 全体 (883件)	② マニュアル・ 行動の指針 ありかつ、 事案対応 経験あり (236件)	③ 知識編の 活用経験 あり (54件)	①		②		③	
				ランク	%	ランク	%	ランク	%
1	1-3-1. 子どもの気になる様子が確認できているか	1	48.0	1	46.2	3	33.3		
2	1-2-1. 子どもと職員間の関係づくりはできているか	2	44.2	2	44.5	4	33.3		
3	1-3-2. 予防に関する日常的な声掛けができているか	3	27.9	4	30.9	2	29.6		
4	1-2-2. 個別面談など、子どもと職員の対話機会が自然に確保されているか	4	28.4	3	27.5	1	33.3		
5	1-8-1. 記録と情報の共有	5	30.7	6	27.1	5	22.2		
6	1-5-1. 子どもの権利を守るためのルールや仕組みに関する説明の実施	6	15.5	16	11.4	15	7.4		
7	1-1-1. 生活環境の基本的整備はできているか	7	16.9	10	16.1	6	20.4		
8	1-1-2. 建物構造の課題把握と対処	8	16.3	7	19.9	12	11.1		
9	1-10-1. 職員に向けたプログラム(予防)	8	16.4	5	20.8	12	11.1		
10	1-5-2. 生活上のルール説明は適切に行われているか	10	12.7	13	10.6	22	5.6		
11	1-7-2. 対人距離などの教育・対応が行われているか	11	9.9	8	13.6	9	13.0		
12	1-1-4. 子どもの安全が尊重され、侵害されることのない生活環境上の境界設定がなされているか	12	8.9	9	11.9	10	16.7		
13	1-7-1. 性教育プログラムを実施しているか	13	5.9	12	11.4	7	16.7		
14	1-2-4. 直接相談することが難しい子どもが発信できる機会を設けているか	14	9.5	14	9.3	20	5.6		
15	1-1-5. 入浴・食事・プールなど、子どもの接触場面への配慮があるか	15	11.1	21	9.7	11	20.4		
16	1-8-2. トラブル発生時の基本対応体制が定められているか	16	7.4	20	6.8	8	13.0		
17	1-2-3. 子どもが安心できる体制下での保健管理・健康把握ができているか	17	7.5	23	5.5	29	5.6		
18	1-11-2. 施設内外での性的暴力/性的事故発生・発覚時の対応マニュアルの作成	18	6.8	10	10.6	33	1.9		
19	1-8-5. トラブル対応時のチーム体制	19	7.4	25	4.7	15	7.4		
20	1-6-1. (自立)支援(治療)計画の作成は適切に行われているか	20	7.8	17	7.2	18	7.4		
21	1-1-3. 入所している子どもの状況に応じた生活区分(年齢別・男女別)が設定されているか	21	5.3	25	4.2	19	5.6		
22	1-3-3. 外泊や長期休暇後の子どもの様子を把握する工夫があるか	21	6.5	15	8.9	25	5.6		
23	1-4-1. 特別に支援が必要な子どもへの配慮があるか	21	4.6	30	2.1	27	3.7		
24	1-4-2. 加害した/被害をうけた子どもへの配慮があるか	24	7.0	19	8.1	33	0.0		
25	1-10-2. 職員に向けたプログラム(介入)	25	4.6	18	7.2	35	0.0		
26	1-5-4. 入所前・入所時情報のチェックシートなどを整備しているか	26	5.3	27	3.8	22	7.4		
27	1-10-3. 子どもに向けたプログラム(予防)	27	5.3	22	5.5	31	1.9		
28	1-2-5. 子ども間の安心・安全な関係づくりのための取組・教育などを実施しているか	28	3.9	28	4.2	30	5.6		
29	1-12-2. 里親・ファミリーホームに向けた性問題の予防・介入に関する研修・相談	29	3.9	41	-0.4	14	9.3		
30	1-3-4. 子どもが閲覧する情報の必要な管理ができているか	30	-0.5	31	1.7	37	-1.9		
31	1-11-3. マニュアルなどの形骸化防止/実質的活用を想定した取組の実施	31	3.9	24	7.2	24	5.6		
32	1-6-2. (自立)支援(治療)計画の見直しは適切に行われているか	32	4.0	34	3.0	15	7.4		
33	1-5-3. 入所直後に子どもが安全を感じられるように職員体制を工夫しているか	33	2.7	33	2.1	28	5.6		
34	1-8-4. 事案対応リーダーの養成/職員研修・スーパービジョン	34	0.0	28	4.2	38	-1.9		
35	1-9-2. 関係機関との連携体制	35	1.7	32	1.7	40	0.0		
36	1-12-1. 問題発生時の報告基準・対応フローの整備	36	1.8	40	0.4	40	0.0		
37	1-7-3. 性的問題として扱う境界線・恋愛に関する取り扱いを定めているか	37	-1.8	37	-1.3	39	-3.7		
38	1-4-3. 加害現場にいた、現場を見ていた子どもへの配慮	38	1.8	42	0.0	32	1.9		
39	1-9-1. 関係機関連携の基本事項	38	1.1	35	1.3	20	3.7		
40	1-11-1. 施設内性的トラブルなどに対応するための組織体制	40	0.2	36	1.3	26	3.7		
41	1-6-3. 引き継ぎ体制	41	1.0	43	-0.8	36	1.9		
42	1-4-4. 加害した/被害をうけた子どもへの教育・プログラムを実施しているか	42	-5.4	38	-5.5	44	-1.9		
43	1-8-3. トラブル発生防止、発生・発覚時対応のための出勤体制が整えられているか	43	-3.6	44	-7.6	44	-1.9		
44	1-11-4. 加害した/被害をうけた子どもに適切なケアを施すための基礎環境があるか	44	-0.7	45	-4.7	42	-7.4		
45	1-10-4. 子どもに向けたプログラム(介入)	45	-5.1	39	-3.8	43	-3.7		

※1: 性の視点から見る、子どもの健全な発達に向けて【知識編】のご紹介

URL: https://staff.aist.go.jp/kota.takaoka/Ai%20for%20better%20society_files/pdf/2020project2-point.pdf

(なお、2021年3月までは、社会的養護関係施設等における子ども間の性的問題に関する予防・早期発見・適切な支援と介入のためのチェックポイントという名称でした。)



※2: 2020年度「児童養護施設等において子ども間で発生する性的な問題等に関する調査研究」報告書のご紹介

URL: https://www.murc.jp/report/rc/policy_research/public_report/



※3: 2019年度「児童養護施設等において子ども間で発生する性的な問題等に関する調査研究」報告書サマリーのご紹介

URL: https://staff.aist.go.jp/kota.takaoka/Ai%20for%20better%20society_files/pdf/2020project2-summary.pdf



性の視点から見る、 子どもの健全な発達に向けて

導入編

この資料は「性の視点から見る、子どもの健全な発達に向けて【知識編】」(旧:社会的養護関係施設等における子ども間の性的問題に関する予防・早期発見・適切な支援と介入のためのチェックポイント※1)を手にするきっかけになるよう、「はじめの一步」として目を通していただくことを目的に作成しています。

この【導入編】をきっかけに、社会的養護関係施設等で従事する皆様が、日々関わっている子どもを思い浮かべながら知識編を活用し、性の視点から子どもの健全な発達の保障が一層促進されることを期待しています。

(以下の内容はアンケート調査の他、児童養護施設等において子ども間で発生する性的な問題等に関する調査研究※2)を基に作成しております。)

はじめの 一步

子どもとの関わりを再確認してみませんか?

まず、はじめの一步として、性の視点から見て子どもに気になる様子がないか、子どもとのコミュニケーションによって確認することが大切です。この点は過去の調査研究でも、日常的な子どもへの働きかけや対話機会の重要性が指摘されています。※3)

あと少し、声掛けしてみると、子どもの様子に気づきがあるかもしれません。

まずはあなた自身が、改めて、「子どもとの関わり」を再確認してみませんか?

視点1 ▶ 1-3-1. 子どもの気になる様子が確認できているか (2-3-2類似)

視点2 ▶ 1-2-1. 子どもと職員間の関係づくりはできているか

視点3 ▶ 1-3-2. 予防に関する日常的な声掛けができているか (2-3-1類似)

視点4 ▶ 1-2-2. 個別面談など、子どもと職員の対話機会が自然に確保されているか

「はじめの一步」と重ねて意識したい視点を大きく4つの要点でご紹介します。

次の一步

①: 性の視点からルールや仕組みを見直してみませんか?

子どもとの関わりを再確認したら、子どもの安全で健全な発達を支える、ルールや仕組みが十分か、子どもの視点に立って、改めて確認してみませんか?

一度に全てが難しいと感じる場合は、ひとつの視点でも見直すことで、今より良い養育環境になるのではないのでしょうか? あなた自身が取り組みやすい項目を優先順位づけしてみるのもいいかもしれません。

視点5 ▶ 1-5-1. 子どもの権利を守るためのルールや仕組みに関する説明の実施

視点6 ▶ 1-5-2. 生活上のルール説明は適切に行われているか

視点7 ▶ 1-1-4. 子どもの安全が尊重され、侵害されることのない生活環境上の境界設定がなされているか

視点8 ▶ 1-2-4. 直接相談することが難しい子どもが発信できる機会を設けているか

視点9 ▶ 1-2-3. 子どもが安心できる体制下での保健管理・健康把握ができているか

次の一步



2:性の視点から生活環境を見直してみませんか？

次に、性の視点から見て生活環境が十分整えられているか、今までの「当たり前」も含めて再度見直してみませんか？

この点は過去の調査研究でも、時間帯別でのブラインドスポットの把握の重要性や、性的問題の発生は「夜間だけ」ではなく「全ての時間帯で発生し得る」という実態が指摘されています。^(※3)

また、シフト制の勤務の場合は、ヒヤリハット事案や、その手前の気になる情報が、日々職員同士共有され、管理職にタイムリーに伝わるのが重要です。

視点10 ▶ 1-8-1. 記録と情報の共有

視点11 ▶ 1-1-1. 生活環境の基本的整備はできているか

視点12 ▶ 1-1-2. 建物構造の課題把握と対処

視点13 ▶ 1-1-5. 入浴・食事・プールなど、子どもの接触場面への配慮があるか

次の一步



3:性について子どもも大人も学び直してみませんか？

どのような子どもでも、性的問題の被害に巻き込まれ得ることがわかっています。忙しい中ですが、子どもの健全な発達について、性の観点から、子どもに関わる大人が研修プログラムなどを通じ、学ぶ直すことが必要です。

また、子ども自身にも年齢に応じた性に関する教育を実施する必要性は高いと考えられます。^(※3)

学び直しを進めるには、職員同士が日頃から(性の話題も含めて)互いの立場の違い・見解の違いを尊重しながら、遠慮なく、そしてリスペクトをもって、心理的な安全が保障された環境で話し合えることがベースとなります。

視点14 ▶ 1-10-1. 職員に向けたプログラム(予防)

視点15 ▶ 1-7-2. 対人距離などの教育・対応が行われているか

視点16 ▶ 1-7-1. 性教育プログラムを実施しているか

性や性的問題に関する基本書の紹介

石川 瞭子 (2008)
『性虐待をふせぐ:子どもを守る術』
誠信書房



リン・エンライト 著 小澤 身和子 訳 (2020)
『これからのヴァギナの話しよう』
河出書房新社



森田 ゆり (2008)
『子どもへの性的虐待』
岩波新書



シンシア・L・メイザー 著、K・E・デバイ 著
野坂 祐子 訳・浅野 恭子 訳 (2015)
『あなたに伝えたいこと:性的虐待・
性被害からの回復のために』
誠信書房



グループ・ウィズネス 編 (2004)
『子どもの性的行動・きょうだい間の性虐待:
親と教師のためのガイド』
明石書店(含6シリーズ有)



レイチェル・ブライアン 著 中井 はるの 訳 (2020)
『子どもを守る言葉『同意』って何?』
集英社



次の一步



4:性の問題が起きたとき、を想定してみませんか？

性の問題を経験したことがある施設の中では、発生後に対応策を考えようとしたために職員が混乱状態に陥ったとしています。^(※2)

そうならないために、事前に問題発生を想定した職員体制・チーム作りを事前に行うことや、事案発生時の基本マニュアルなどの整備を行うことの必要性が考えられます。^(※3)

自分の周りでは起きない無関係なこと、では決してありません。改めて「性の問題が起きたとき」を想定して、今の準備で十分かどうか、改めて確認してみませんか？

視点17 ▶ 1-8-2. トラブル発生時の基本対応体制が定められているか

視点18 ▶ 1-11-2. 施設内外での性的暴力/性的事故発生・発覚時の対応マニュアルの作成

視点19 ▶ 1-8-5. トラブル対応時のチーム体制

視点20 ▶ 3-3-1. 現段階における子どもの状況把握

視点21 ▶ 3-1-1. 子どもの安全確認

チームでやろう



性のこと、職員同士でも話してみませんか？

「性の視点から見る、子どもの健全な発達に向けて【知識編】」(旧:社会的養護関係施設等における子ども間の性的問題に関する予防・早期発見・適切な支援と介入のためのチェックポイント^{※1})は、それぞれの施設や職員が、子どもの安全、健全な発達を支える観点から、取組を見直す際の要点を示したものです。

知識編を理解するだけでなく、それぞれの子どもの養育環境がより良いものになるよう、実践の一步を進めることが期待されます。

「はじめの一步」、「次の一步」はまず、あなた自身が一步を踏み出すことを期待していますが、これらの視点は、周りの職員と話し合い、一緒に取り組むことでさらに大きな歩みになると考えています。

以下の活用例を参考に、周りの職員と一緒にチャレンジしてみませんか？

活用例 1 ▶ 年度初めなどに職員同士で読み合わせをしてみませんか？

活用例 2 ▶ 子どもの入所時や長期休暇の前後に、職員同士で見直しをしてみませんか？

活用例 3 ▶ 体系的に性教育や性的問題について学べる研修を計画してみませんか？

活用例 4 ▶ 【知識編】から皆さんの施設独自の【実践編】になるように、マニュアルづくりや問題発生時の対応ルールの整理から始めてみませんか？



実践編づくりなどの際に、データを活用してみませんか？

次頁では、「性の視点から見る、子どもの健全な発達に向けて【知識編】」の中から、ご自身の環境に応じて、項目の優先順位付けや、項目抽出をしていただく際に、参考になるデータを掲載しております。

問題対応等の経験別に、肯定的に評価されている知識編の各項目をランク付けして一覧化しています。